

4月16日に、本校3年生を対象とした「全国学力調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語と数学、理科の3教科テストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。



## 総合結果

国語・数学・理科ともに全国平均には届きませんでした。教科によっては10ポイント以上下回った教科もあり、より一層の基礎学力の向上を目指し、日々の「授業規律」を今以上にしっかりと整える必要があります。また、家庭学習の時間（宿題等）もしっかりと確保していただけるようお願い申し上げます。一方、子どもたちの学校生活や教職員との信頼関係は全国を上回る結果となりました。とても喜ばしいことです。教職員一同、今後も一層の努力を重ねるつもりです。

### ～国語科より～



全体的に、全国平均よりやや低くなっています。特に、長文読解や記述式の設問に課題があります。長文を根気強く読むことや自分の考えや意見を書くことを苦手としているようです。その一因として語彙力の不足が考えられます。「気長」や「気が短い」が性格を表す言葉だと分からずに無解答になっている割合が高くなっています。語彙力を増やしたり、長文読解になれるためには、やはり新聞を読んだり、読書に親しんだり、自分の考えや思いを書く練習をしたりすることが大切です。

### ～数学科より～



図形の証明や考え方を説明する問題では、無回答の割合が高く、論理的に考えをまとめて表現する力に課題があることが見られます。記述問題は、単に答えを出すだけでなく、「なぜそうなるのか」「どのように考えたのか」を言葉で説明する力が求められます。これは、将来の学びや社会生活においても重要な力です。本校では、授業の中で「考えを言葉で表す活動」や「友達と説明しあう場面」を増やし、記述力の向上を図っています。

### ～理科より～

皆さんの課題としては以下の2点が挙げられます。①元素記号や化学式など基本的な知識が身についていない。②実験結果の予想や、結果から分かることを考えて表現する力が足りない。課題を克服するために、実験を行うときは結果を予想する、失敗したときには何がだめだったのかを考えてみてください。また、基本的な知識を身につけることはもちろん、身についた知識を組み合わせて自分の考えを立てる力をもっと身につけられるよう、普段の授業から意識して取り組めばさらに力は伸びると思います。頑張ってください。



### ～生徒質問紙より～

学校や教員について Yes解答の比較			
質問内容	本校	京都府	全国
先生はあなたのよいところを認めているか	89.7	91.3	92.2
困りごとや不安を学校にいる大人に相談できるか	78.1	72.7	73.2
学校は楽しいか	86.7	85.8	86.1
友人関係に満足しているか	92.1	91.7	91.4
普段、幸せな気持ちになるか	93	92.2	91.6

多くの子どもたちが、「学校」に信頼を置いてくれている結果となりました。しかし、100%の結果でないことを私達教職員は真摯に受け止め、改善し続けていかねばなりません。「幸せ」と感じている子どもが多いことも喜ばしいことです。

### 学びや学習について Yes解答の比較

質問内容	本校	京都府	全国
わからないとき、自分で学び方を考えて工夫できているか	69.5	76.0	77.4
平日の学習時間（学校外）30分以下	40.5	24.1	19.0
平日のICT使用時間（学校外で学習目的）30分以下	75.7	64.4	66.2
休日の学習時間（学校外）30分以下	75.6	50.2	39.5
通塾	70.2	68.7	69.0

平日、休日ともに自宅での学習時間が30分以下の子どもが全国平均の約2倍となっております。家庭学習の習慣をつけるようにしましょう。例えば、「携帯は2時間まで」「毎日2時間は机に座って学習する」など、ご家庭でのルール作りなども有効ではないでしょうか。

### 授業について Yes解答の比較

質問内容	本校	京都府	全国
課題解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいたか（主体性）	68.6	76.3	77.7
各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動	54.5	68.4	70.6
協働的な活動で、自分の考えを深めたり、他との差異に気が付いたか	83.1	73.6	72.9
学習内容について、振りかえり、次の学習につなげられているか	73.1	73.1	73.4
先生は学習内容についてわかるまで教えてくれているか	88.8	84.9	83.8

各教科で、「仲間との協働的な授業」を通して、自己の考えを深め、他者との考え方の相違に気が付き、互いに学びあっていくという授業のねらいは達成されていたようです。教員が、子どもたちがわかった！となるまで粘り強く教えてくれていたと答えた子どもが全国平均を上回りました。一方、自分の考えをまとめる活動は少なかったようです。今後の授業の在り方を私たち教員が見直し、改善していかなければなりません。

### 学びや学習について Yes解答の比較

質問内容	本校	京都府	全国
平日の読書時間（学校外）10分以下	73.5	58.2	56.6
自宅の本の冊数100冊以上	18.6	30.5	27.6
読書は好きですか	50.4	59.4	61.6
生活の中での自然とのふれあいや観察経験	67.8	74.5	75.7
地域や社会に貢献したいか	64.5	72.8	75.3

平日の読書時間が10分以下という子どもが全国平均よりもかなり多いようです。「国語力」は「読書」によって培われるものです。また、「国語力」は「生きる力」でもあります。昨今のSNSの急激な普及により、失われつつある「国語力」は、「子どもの心を伝えることのできる手段=言葉」なのです。辛いときや悲しいとき、その気持ちを「言葉」にして伝えることができなかったのなら…子どもたちは非常に厳しい状況に追いやられるでしょう。自分の本当の気持ちに「言葉」で気がつき、整理することもできません。今こそ「国語力の奪還」にご家庭、学校が一丸となって取り組まないといけないのでしょうか。